

令和5年第1回北海道議会定例会 予算特別委員会（経済部審査） 開催状況（経済部観光局）

開催年月日 令和5年3月3日
 質問者 民主・道民連合 広田 まゆみ 委員
 答弁者 アドベンチャートラベル担当局長、
 アドベンチャートラベル担当課長

質問要旨	答弁要旨
<p>一 アウトドアガイド業の振興について (一) アウトドアガイドなどの現状について (広田委員) まず、アウトドアガイドなどの現状について伺います。アウトドアガイドをはじめ、ガイド等の数や事業規模、現状の経営状況などについてどのように認識しているのか伺います。 さらに、特に北海道のアウトドアガイドの現状において、既存の制度が、どのような成果を果たしてきたのか、課題としては何があると認識され、それを今後、どのように改善していこうと考えているのか伺います。</p> <p>(一) 一再 アウトドアガイドなどの現状について (広田委員) 今回の質問の肝でもあるのですけれども、この新しいガイド制度の創設で、今、仰った課題ですね、個人事業主が多く、業界として、まだまだ成長していないと、その課題について、解決していくと考えているのか、所見を伺います。</p> <p>(二) アドベンチャートラベルガイドなどの人材育成について (広田委員) 私も、この新しいガイド制度には全面的に賛成な訳ですけれども、来年度から本格的な取組が始まるアドベンチャートラベルを支えるガイド人材も、もちろん、まだまだ不足している現状にあるのではないのでしょうか。 新たなガイド制度も創設をされましたけれども、どのように人材を育成していくのか伺いたいと思います。 私としては、平日頃ご議論させていただいたところですが、プロモーションに力を入れることも重要ではあるかもしれませんが、広域自治体の道としては、人材育成に絞ってしっかり注力すべきではないかと考えますが見解を伺います。</p>	<p>(アドベンチャートラベル担当課長) アウトドアガイドの現状についてであります。道では、平成14年度に、北海道独自の制度として、北海道アウトドア資格制度を創設し、その資格保持者は、昨年度末時点で延べ518名にのぼり、アウトドア活動の振興に重要な役割を担っております。 道といたしましては、個人事業主が多く、ガイドの仕事だけで十分な収入を得ている方が少ないことや、人材の育成をはじめ、人材や資金の確保といった課題もあることを把握しております。 これらの課題を解決するため、北海道アウトドアガイド資格制度を土台とした、アドベンチャートラベルに対応する新しいガイド制度を創設することとしております。</p> <p>(アドベンチャートラベル担当課長) アウトドアガイドに係る取組についてであります。道としては、新しいガイド制度を創設し、既に道内で活躍されているハイレベルなプロのガイドや、将来を担う若いガイドの皆様に、幅広く参画、活用いただきながら、本年9月のアドベンチャートラベル・ワールドサミットにおいて、道内の優れたガイドの存在をアピールするなど、ガイドの利用拡大を図りまして、技術やサービスに応じた対価を得て、安定的に高収入を得ることができる「稼げるガイド」を育成、確保してまいります。</p> <p>(アドベンチャートラベル担当課長) 新しいガイド制度についてであります。道では、自然や山岳といった既存のアウトドアガイド資格制度を土台に、本道の強みを活かしたバックカントリースキーやサイクリングといった対象分野を拡大するなど、ヨコの広がりを図るとともに、外国語や国際資格の取得などによりガイド能力の質を高め、タテの広がりを図る、新たなガイド制度を創設することといたしました。 道といたしましては、これまで、アドベンチャートラベルに関連する国際資格の取得への支援や道内の経験豊かなガイドの皆様を講師とした研修会等を開催してきたところでありまして、今後も、ガイドの育成、確保に必要な研修等の充実や、顧客や旅行会社からの評価をフィードバックする仕組みづくりについて検討してまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) アウトドア業界振興のための人材育成のあり方について</p> <p>1 大学や専門学校などの教育機関との連携について (広田委員)</p> <p>こうした国際資格の取得への研修というのは、ガイドの皆さんからもニーズがあることであり、是非、北海道が、これを学びに来るなら北海道に来るというぐらいの、そういう集積をしていただきたいと思うわけですが、改めてですね、このアウトドア業界振興のための人材育成のあり方ということで伺いたいと思うのですが、今までお話を聞かせていただいたのは個々の能力、個人の能力の育成だということに思うのですが、例えば事業者というか、業界を強くしていくための、そういう人材育成も必要ではないかというふうに思います。</p> <p>数回のワークショップでの啓発や、あるいは資格制度だけではなく、起業、開業の部分も含めての人材育成が必要ではないでしょうか。</p> <p>アウトドア人材の育成についても、繰り返しになりますけれども、北海道が先進地として、人材やノウハウが集積する未来を、私としては展望したいと思えます。</p> <p>現時点で、北海道におけるアウトドア人材育成を行う大学や専門学校などの状況を、道としてどのように把握し、連携をとっているのか、伺います。</p> <p>また、私としては、実際の開業やガイド経験者が参加した大学、専門学校など、実際に創業、開業に繋がるようなガイド養成コースなどの創設も、道として支援することも重要だと考えますが、所見を伺います。</p> <p>1-再 大学や専門学校などの教育機関との連携について (広田委員)</p> <p>北海道アウトドア資格制度人材育成機関という、この認定されていたというのが私にも不勉強だったのでありますが、でも、実際にですね、これらの育成機関、例えば岩見沢教育大学にしても、素晴らしい教育をいただいておりますけれども、そこから開業、創業に繋がる事例は、まだまだ少ないのではないかなというふうに思います。改めて、新しいガイド制度の創設を機に、教育機関との連携についても再検証する必要があると考えますが、この人材育成機関の認定要件等と併せて、所見を伺います。</p> <p>(広田委員)</p> <p>ないということなので、これについても、しっかり、どのような役割を、広域自治体の道として果たすのか、検討していただきたいというふうに思います。</p>	<p>(アドベンチャートラベル担当課長)</p> <p>教育機関との連携についてであります。道では、安全で質の高いアウトドアガイドをはじめ、アウトドア活動全般に携わる様々な人材を幅広く育成するため、必要な要件を備えた教育機関などを「北海道アウトドア資格制度人材育成機関」として認定してきています。</p> <p>現在、北海道教育大学岩見沢校など、3機関を認定しており、認定区分に応じた教育プログラム履修者は、北海道アウトドアガイド資格認定試験の一部等を免除しているところであります。</p> <p>道といたしましては、今後とも、大学や専門学校などの教育機関との連携を通じまして、アウトドア活動全般に携わる人材の育成を支援してまいります。</p> <p>(アドベンチャートラベル担当課長)</p> <p>教育機関との連携についてであります。道では、講師やカリキュラムなどプログラムの実施体制や、履修者の適切な情報管理、履修期間といった基準を満たした教育機関などを「北海道アウトドア資格制度人材育成機関」として認定しております。</p> <p>新しいガイド制度においては、国際的にも評価されるハイレベルなガイドの育成、確保に向け、国際資格等の取得を目指すものでありますが、これらの国際資格を履修科目としている教育機関は、現在では、道内にはないものと認識しております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>2 道独自の中長期的な人材育成のしくみの構築について (広田委員)</p> <p>次に、道独自の、しつこいですけれども、私自身はプロモーションより、道庁がしっかりやるのは人材育成に特化すべきだというのは、私の持論でありますので、しつこく人材育成のところについて伺いますけれども、意外と地域にはですね、実は、即戦力となるような人材はいらっしゃるのだと思います。ガイドということを目指すというか、ガイドという資格を取ろうという思考ではなくても。現在はですね、資格などを動機付けとして、研修・ワークショップなどを行って、ガイド人材を発掘するというスタイルになっているように感じますが、ここ数年、実際には、その枠組みでは、いわゆる稼げるガイドというか、創業、起業するガイドが育っていないのではないのでしょうか。</p> <p>そうであれば、例えばフード塾などのように、どさんこプラザでのテストマーケットなどもあり、食をキーワードに、起業や商品開発などが生まれている、また、幅広い事業者に学んで、ネットワークができる仕組みであります。孤立化しない仕組みであります。そして、あるいは、例えば農業でいけば、経験ある農業者のところに、研修に入れる就農支援と同じような仕組みも、地域おこし協力隊だとか、集落支援員など、色んな制度の活用等もしながら、ガイド育成の道独自のプログラムをたちあげるべきだと考えますが、現時点で、独自の人材育成あるいは人材マッチングの仕組みの構築などについて、どのように考えているのか伺います。</p> <p>(四) アドベンチャートラベル・ワールドサミット以後に遺すものについて (広田委員)</p> <p>人材育成の仕組みをどう作るのかというご質問をしたのにも、やっぱり、その新しいガイドを創設しましたというところに逃げちゃってるように聞こえちゃうんですね。新しいガイドの創設は一つのきっかけであって、そこから、広域自治体の道として仕組みを作っていくかが重要だというふうに思います。</p> <p>私としては、アドベンチャートラベル・ワールドサミットが北海道で開催されるというのは、大きな成果だと考えますが、それは、これまで、ある意味北海道運輸局が積み上げてきた成果の反映だというふうに思っております。</p> <p>今度は、じゃあ、広域自治体の道として、サミット終了後に、何を未来につなげる考えか。私としては、人材育成や個々のアウトドアの資格でブラッシュアップしていくということだけではなくて、アウトドア業自体の振興に向けて、道の政策の視点ですとか、視座が変わることが重要であると考えますが、改めて、道としての展望を伺います。</p>	<p>(アドベンチャートラベル担当局長)</p> <p>人材の育成、確保についてであります。道としては、高い技術を持ち、地域の自然や歴史、文化を熟知したガイドの皆様が、訪れた方のニーズを満たし、その技術やサービスに応じた対価を得て、安定的に高収入を得ることができる「稼げるガイド」となるように、顧客や旅行会社からの評価を導入するなど、国際的にも評価される新しいガイド制度を創設し、人材の育成、確保につなげてまいります。</p> <p>(アドベンチャートラベル担当局長)</p> <p>サミット終了後の取組についてであります。道では、本年9月に、アドベンチャートラベル・ワールドサミットが北海道を舞台にリアルで開催されることを好機ととらえ、国内外でのアドベンチャートラベルの認知度や、本道のブランド力の向上を図るとともに、新しいガイド制度により国際的にも評価されるハイレベルなガイドを育成するなど、今後の本道観光の柱の一つであり、欧米等からの新たな需要を取り込む旅行スタイルである、アドベンチャートラベルの定着に取り組んでまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>【指摘】 (広田委員)</p> <p>もちろん、ガイド個人の育成ということで、ハイレベルなガイドの育成というのも非常に重要だと思うのですが、私は、広域自治体の道として、アウトドアガイド業の、ある意味振興策というものも、きちんと考えていく必要があるなと思います。例えば、開業や廃業の支援だとか、今、第一世代で実際にガイドをしている人たちの事業承継の面ですとか、今の中小企業振興施策とか、そういうところにはまらない部分もあるというふうに思いますので、この個としてではなく、面として、塊として、北海道のアウトドア業をどう振興していくかというの、新たな視点として考えていただくよう、指摘をさせていただきたいと思います。</p>	